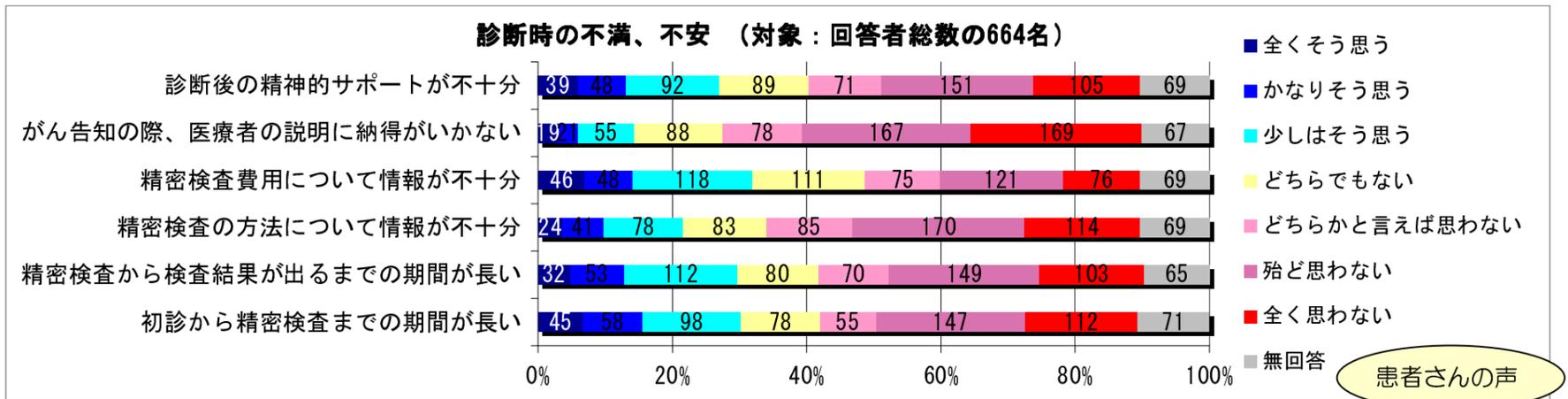


# 奈良県がん医療に関する実態くがん医療に関するアンケート調査（平成22年12月実施）より

奈良県においてがん医療、緩和ケア、在宅医療に関し、患者や家族のニーズを明らかにし、がん対策に反映させることを目的に、がん診療連携拠点病院・相談支援センター、がん診療医療機関、在宅療養支援診療所、訪問看護ステーション、患者団体を通じて、がん患者（入院、通院、在宅）・経験者やその家族・遺族（1766件）にアンケート調査を実施。（有効回答数 664件 / 回答率

## これまでに医療機関で受けた診断や治療について

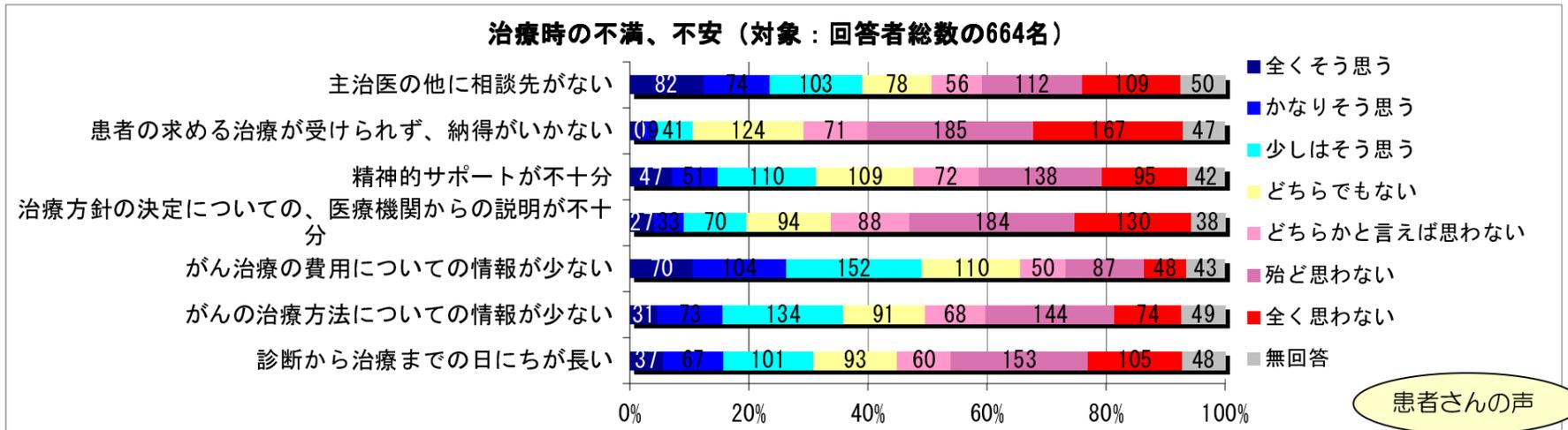
診断時に不満や不安に思うことはありましたか？



・『精密検査費用について情報が不十分』が31.9%、『初診～精密検査までの期間』『精密検査～検査結果が出るまでの期間』に不安、不満を感じた割合が、それぞれ30%を占めていた。

・現在近くの病院で世話になっているが、色々な事にこちらから質問しないと余り説明がなされない。ガン治療は自分で決める必要のあることを実感した。(58歳、男/患者)  
 ・診察のあい間の告知で、ショックが大きかった。先生にとっては、多くの患者の1人ですが、患者にとっては、大きな問題であり、時間をとって、説明して欲しい。(49歳、女/家族)  
 ・初診の時に「来るのが遅かったですね。1年前やもっと前に来られたらなんとかなったんですが。」この言葉は忘れられません！(46歳、女/患者)  
 ・医療用語というか専門用語がたくさんあり、その1つ1つを聞くというか、質問するのが悪いような気がして後に不安が残る。(56歳、女/患者)  
 ・告知、手術等説明を受けている際、中待ち会い室に3名程いた。カーテンがあるだけの状況なので、すべて聞いていた感じ。13年前とは言え、「気のどくだなあ〜」との視線をあびながら診療室を出たが、プライバシーも何もないなあ、と不快であった。スタッフに少し配慮があれば・・・と今でも思い出す。(60歳、女/患者)

がんの治療を受けるにあたっての不満や不安に思うことはありましたか？

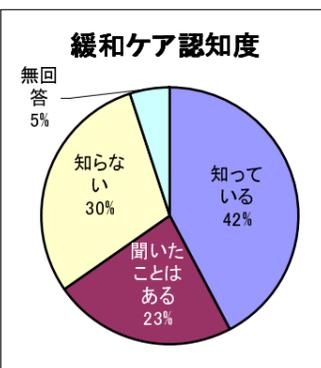


・『がん治療の費用についての情報が少ない』が49.1%と最も不満、不安を感じており、次いで『主治医の他に相談先がない』38.9%、『がんの治療方法についての情報が少ない』35.9%、『精神的サポートが不十分』31.4%であった。

・治療方針決定に関する説明内容はくわしく安心出来るような体制が必要と思う(72歳、男/患者)  
 ・治療を受けるに当たって詳しい説明がなかった。(59歳、女/患者)  
 ・患者の不安に対して医師の「安心を考え、希望を与えることば」が全くなく、高圧的で今だに古い体質の医師もいるのかとガク然としました。(65歳、男/患者)

## 緩和ケアについて

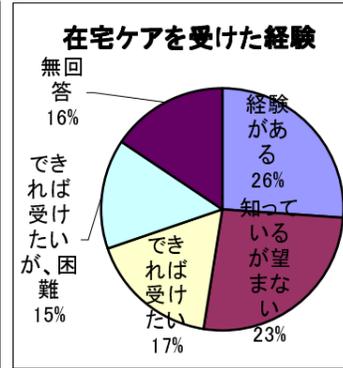
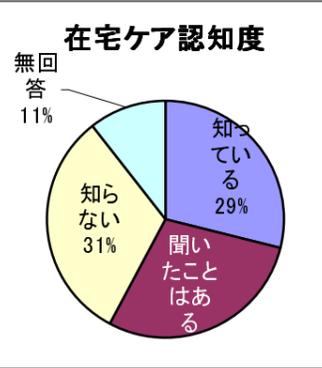
患者さんの声



・自分が緩和ケア受けたいが場所がわからない。(69歳、男/患者)  
 ・やりたい事があると転院が決まった際に告げると、担当看護師が転院先での緩和ケアチームの手続きをして下さいました。体の痛みなどはなかったのですが、精神的に支えられ助かりました。痛みには身体的なもの他にも精神的や、色々な痛みがあるのをもっと認知されれば、緩和ケアを受けやすいのではないのでしょうか。それと、緩和ケア＝終末期のイメージが一般には強すぎ、もっと啓蒙が必要です。(49歳、女/患者)  
 ・主人の病気を通じて緩和ケアの事を知りました。在宅ホスピスの協力を得て、自宅でケアし、本人の希望通り自宅で亡くなりました。緩和ケアのおかげで苦しむ事もなく、やすらかに終焉をむかえる事ができてよかったと思います。(68歳、男/遺族)

・緩和ケアの言葉あるいは意味は、半数以上の回答者に認知されていない。

## 在宅医療について



・在宅医療を知っている割合は29%、意味あるいは言葉を知らない割合は61%であった。

・在宅医療を知っている192人のうち、在宅医療の経験がある者は50人(26%)であった。

ご家族の声

・毎日のように症状が変わるので、やはり不安でした。(79歳、女/遺族)  
 ・とてもよい在宅医にめぐまれ、家で看とることができ、家族も感謝しているが、一般的に、緩和ケアに精通した在宅医が少ないと感じる。(72歳、男/遺族)  
 ・奈良県に在宅緩和ケアをしている医師が少い。24時間対応してもらえない現実がある。(65歳、女/本人)